

総葉数では Silverleaf Varieties の79枚, New Ruffled の64枚, Salmon Color Light の46枚と品種間に差が明らかに認められたが, は種期による差はほとんどなくなった。

開花は早期は種ほど早く咲くが, は種から開花まで所要日数は Silverleaf Varieties の5区が300日で約70%の開花に対して Salmon Color Light の5区が15%と品種の早晚により異なる。また, 開花および花蕾の発育傾向からみると, 1月から5月までは種期ではは種期が遅れるほど, 開花までの所要日数が短くなる傾向がある。

4 む す び

1月から5月までは種期を移動して生育, 開花傾向について検討した。

早期は種ほど開花が早く Silverleaf Varieties のような早咲品種では12月には60%以上開花し, 1月にはほとんど開花した。

は種から開花までの所要日数は品種の早晚で異なり, いずれのは種期も早生種は360日, 晩生種は390日前後で, 厳寒期はやや長く気温とともに短くなっていく。

は種期による生育は, その後の気温に左右され, 特に高温期の移動による植え込みがその後の生育に現われ, 開花期における生育には差がなく同程度の生育をしている。

シクラメンの4号~4.5号の小鉢作りは, 開花数が2~3輪, 着色蕾で4~5本程度が出荷適期と考えられ, 春まき栽培では出荷期から逆算して, 早生種で12カ月, 晩生種で13カ月前後はは種適期と考えられる。

参 考 文 献

- 1) 中山昌明・高橋敏秋. シクラメンの生育におよぼすは種期の影響, 園芸学会, 昭和43秋期大会講演要旨
- 2) 住友昭利・小杉清. シクラメンの研究(1)種子の発芽に関する実験. 香川大学農学部報告 14 (2)

シクラメンの夏期日照制限が生育に及ぼす影響

和泉昭四郎・遊佐 吉雄
(宮城県農試)

1 ま え が き

シクラメン栽培では夏管理として強光を避けるためヨシズ, 寒冷紗などにより各種の遮光法がとられている。しかし, その方法および遮光率は一定ではなくこの時期の日照制限が開花期に及ぼす影響は明らかでない。本試験は1968年夏期に日照制限の影響と適正な遮光度合を検討したものである。

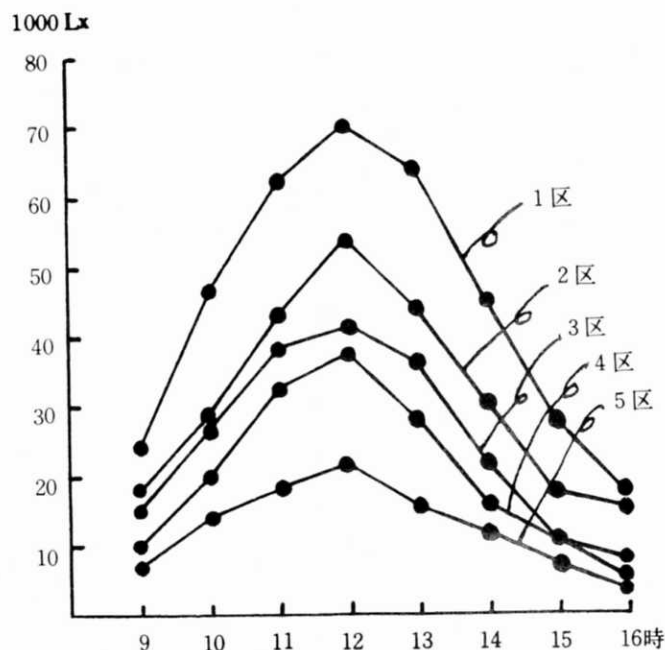
2 試 験 方 法

試験は宮城農試圃場温室で行ない, 日照制限処理は寒冷紗白600# 1枚, 同2枚, 黒300# 1枚, 同2枚による方法で各区25鉢供試した。照度制限はベンチ上1mの高さに行ない, 1968年7月1日から同年8月30日まで60日間とした。

耕種法は品種ボンフェイヤーを用い, 1967年9月2日には種, 第1回仮植は1968年2月17日3号鉢に, 第2回仮植は5月22日4号鉢に行ない, 同年9月11日に5号鉢に定植した。なお, 施肥, 灌水は適時行ないその他はほぼ慣行法とした。

3 結果および考察

各日照制限処理による照度を測定した結果は第1図に示すとおりである。

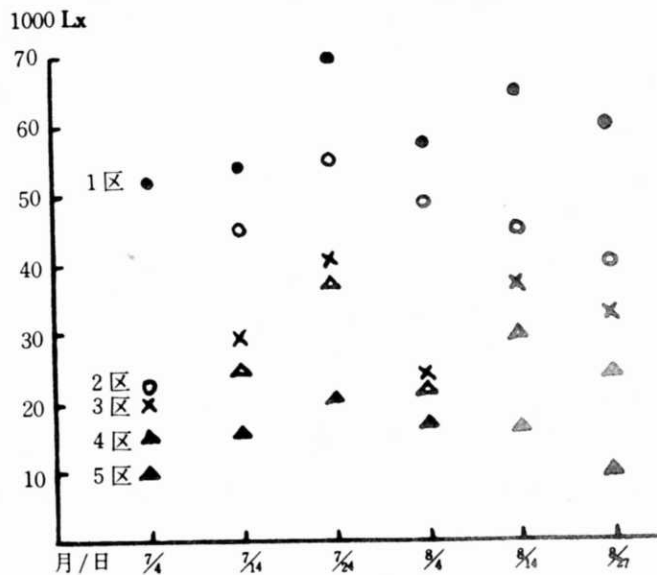


第1図 照度の日変化 (7月24日)

7月24日の照度の動きであるが、最も照度の高い12時における照度は無処理区で70,000 Lxに対し、寒冷紗白1枚区が55,000 Lx、以下制限処理により低下し、最も制限率の高い寒冷紗黒2枚処理で21,000 Lxとなっており、無処理区は照度の変化が大きいのにに対し、制限率の高い区ほど時間経過による動きは小さい。

また、処理期間中の照度測定の結果は第2図に示すが制限率が無処理の100%に対し、以下平均30.3%、51.5%、57.7%、77.0%である。

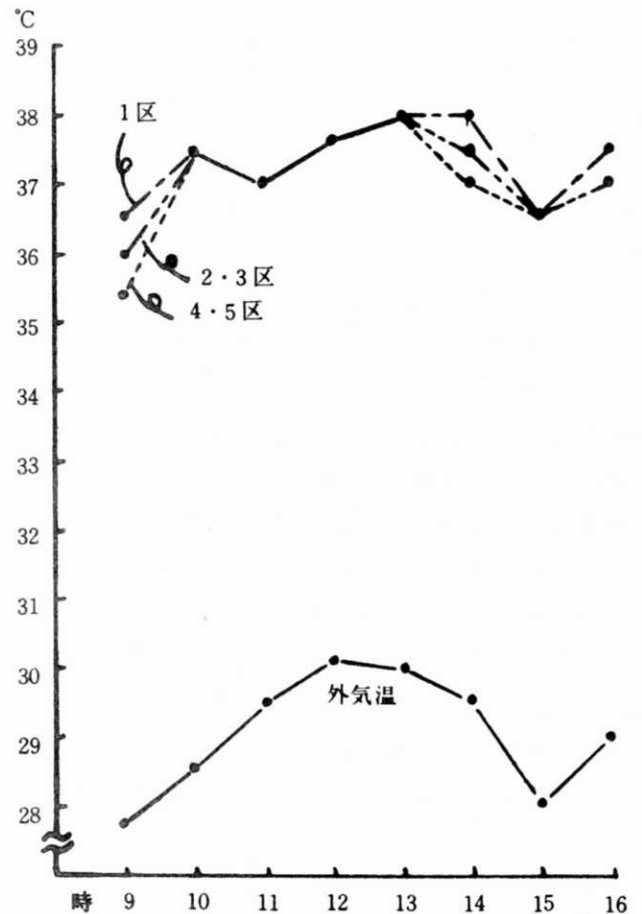
この処理下の同7月24日の気温変化を測定した結果を第3図に示した。外気温の動きに対し、温室内は高温となり、無処理区で最高38℃まで達した。



第2図 処理期間の照度 (12時)

しかし、日照制限した区でもこの効果は少なく、その幅は最大1℃とわずかの低下しか認められなかった。これは室内処理であるため通風が少なく、差が現われなかったものと思われる。

このような条件下におけるシクラメンの生育は第1, 2表に示すとおりである。



第3図 気温の日変化 (7月24日)

第1表 開花期の生育 (1968)

処理区別	項 目	草 丈	葉 数	株 張 り	(最 大 葉)	
					葉 長	葉 幅
		cm	枚	cm	cm	cm
1. 無 処 理 区		14.5	26.6	25.1	8.9	9.6
2. 寒冷紗白1枚区		13.8	26.5	27.2	8.4	10.4
3. 寒冷紗白2枚区		14.9	25.4	27.4	8.1	9.7
4. 寒冷紗黒1枚区		14.1	24.8	25.5	7.9	9.8
5. 寒冷紗黒2枚区		16.5	24.3	26.8	8.0	9.8

第2表 開花期および開花率 (1968)

項目 処理区別	開花始期	花 梗 長	開花茎数	開 花 率	葉やけ障害お よび枯死株
	月 日	cm	本	%	
1. 無 処 理 区	12. 3	20.4	2.2	92.0	2
2. 寒冷紗白1枚区	12. 7	22.8	2.1	92.0	0
3. 寒冷紗白2枚区	12. 5	23.9	3.2	84.0	1
4. 寒冷紗黒1枚区	12.10	24.0	3.0	80.0	0
5. 寒冷紗黒2枚区	12.14	23.5	3.2	68.0	0

第1表は開花期における生育調査で、草丈、葉数、株張りは鉢物としての型を左右する要因と考えられ、草丈は照度制限率の最も高い寒冷紗黒2枚処理でやや腰高となるが区間差は少ない。葉数は照度制限が強くなるほど展開が遅れる。株張りは制限率による差は僅少である。また、最大葉の大きさは葉幅より葉長に影響し、葉の形としてやや長楕円形の生育を示している。

これらの結果からシクラメンに対する照度の制限は株の生育はやや大型になるが、制限率が高くなるに従い葉数の展開が遅れ、葉型にも影響が認められる。

開花期における開花率と花部の生育を調査した第2表によると、開花始期に及ぼす影響は明らかで無処理と制限率の高い寒冷紗黒2枚区で約10日間の開きがあり、処理区間でも制限率とともに3～4日の差が認められる。花梗長および開花茎数では制限率の高い処理ほど大となっているが、開花期の遅延とともに相対的に伸び率も高くなり、茎数が大となったものと思われる。

12月までの開花率は開花期と同様遅れた区ほど開花率が低下し、照度制限による花芽形成の影響が認められる。また、欠株については明らかに葉やけ障害と認められるもの、乾燥害によるものとし、病害による

欠株は対照外とした。これによると欠株は照度制限が弱い区で認められるが、寒冷紗白2枚区にも出ていることから強日射による影響より高温による生育阻害の影響が強いと思われる。本試験の処理方法では気温低下の効果は認められず今後の課題である。

7・8月の天候をみると快晴6、晴9、曇36、雨8日で、自然日照は比較的弱い状態であったが、開花期における鉢花としての生育と遮光との関係では照度制限率30%前後が最も有効と思われる。

4 む す び

1 温室内で寒冷紗による日照制限がシクラメンの生育に及ぼす影響を検討した。

2 開花期は照度制限が強いほど遅延し、開花率も同様に低下する。

3 開花期における生育は照度制限により株はやや腰高となり葉数の展開が遅れるが株張りには影響が少ない。

4 葉の形は葉幅に比し葉長が大となりやや長楕円形の生育を示した。

5 有効と思われる照度制限法は寒冷紗白1枚でその制限率は30%である。